



ギフチョウを守れ

美濃東部区域農用地総合整備事業が進む笠置町毛呂窪地区で3月29日、ギフチョウの幼虫の餌となるヒメカンアオイの移植作業が行われました。作業には地元の保育園児や小学生とその保護者ら約50人が参加。農業用道路の建設予定地に生育しているヒメカンアオイを小型スコップで丁寧に掘り起こし、道路予定地外へ移植しました。参加した人たちは「こんな近くにギフチョウがいることを初めて知りました」と感想を話していました。

ヒメカンアオイの葉を土ごと掘り起こし丁寧に移植



地域で守る歴史の町並み

3月25日、国の伝統的建造物群保存地区に指定されている岩村町本通りの防災計画の報告会と防災まちづくりシンポジウムが岩村振興事務所で開催されました。計画は平成15年度から地域と行政が一緒になって検討。伝統的な防災の知恵を生かし、地域の自治会やまちづくりと連携した防災を進めることとしています。参加者からは「岩村に合った計画ができた。防災の意識を持ち続けることが大切」などの意見が出ました。

岩村歴史の町並みを地域ぐるみで守る計画を説明

次世代育成計画を答申

3月30日市役所で「恵那市次世代育成支援行動計画」をまとめた地域協議会の安藤直実委員長が市長に答申書を手渡しました。

計画は公募の市民を含む委員約70人が3部会に分かれ、アンケート調査や現況調査、子育て現場などからの課題について解決策を議論しまとめたもの。子ども、子育て家庭、地域の目指すべき姿を実現するため、事業や施策も可能な限り数値目標を取り入れ、市民としての行動も盛り込まれています。



市長に計画を答申する安藤委員長（右から2人目）

地域によって違う門松

3月26日、恵那文化センターで「語り合おう恵那の人々の暮らし」が開催され、約100人が参加しました。東海学園大学非常勤講師の石川稔子先生による正月行事に関する講話を聞いた後、地区代表の7人の方が門松についての調査を報告。門松に使われる木にはいい神様である「年神様」が宿っているため、「門松切り」とは思わず「お松迎え」と呼ぶことや、迎えた木を運ぶときは必ず縦にして運ぶことなど、地区それぞれの報告をしました。

それぞれの地区の門松について報告する調査員



地域自治区が発足

県下では最初の事例となる条例による地域自治区が市全域の6つの地区で誕生しました。地域自治区に置かれる地域協議会では会長・副会長が互選され、市長から市総合計画に盛り込む地域計画と今年度積み立てる地域振興基金を活用した地域づくりの2つが諮問されました。今後、地域が主体的にまちづくりに参加できる計画づくりを話し合いを進め、地域計画は9月には、取りまとめられ市長に答申される予定。

市長から答申書を受け取る山本義男山岡地域協議会会長



地域交流の拠点完成

3月28日、明智町吉良見でふれあい会館吉良見のしゅん工式が行われました。施設は平成13年度から建設委員会を設けて検討されていたもので、県営中山間地域農村活性化総合整備事業により延べ床面積約374平方メートルで、ホール、和室、調理加工室などを備え、地域の交流とコミュニティの推進、農業振興の拠点施設として活用されます。式典では市長ら関係者が出席し、テープカットなどにより施設の完成を祝いました。

施設の前でテープカットをし施設の完成を祝う



地域の達人と技学ぶ

4月17日、山岡農村環境改善センターで関係者250人が参加し、山岡親子学園開校式が開催されました。学園は「感謝とやさしさの心」育成を基本とし、学校週5日制に対応した「サタデータイム」、地域のそれぞれの人が持つ技能、技を学び合う「フロンティアタイム」など約70コースのプログラムがあり、式の後には、小学生らがゴルフ、漢字検定など自分の選んだコースに分かれて、先生との学習計画の打ち合わせをしました。

親子学園の開校式で校歌を斉唱する子どもたち



山岡、串原でCATVが開局

平成13年度から事業が進められていた山岡、串原の2つのケーブルテレビが4月1日に開局しました。加入者数は山岡1120世帯、串原305世帯で地上波や衛星放送に加え、お知らせなどの文字放送や自主放送、インターネットにも接続できるほか、各地域内ではケーブルを利用したIP電話が無料で利用できます。今後は自主放送に加えて、気象情報、農業情報、防災情報など地域に密着した情報を提供していきます。

開局日には市長のメッセージを放送

懐かしの車がパレード

4月10日、「第10回クラシックカーで大正村を走ろう」が明智町で開催され、昭和7年式のダットサントラックをはじめ、国産車を中心に懐かしの車76台が勢ぞろいしました。

生産後20年以上の車が集まるこの催しには、東海3県や長野県からも参加があり、会場ではエンジンルームを開け、車談義に花を咲かせていました。午後2時からは交通安全を願い大正村の町並みをパレードし、現役ぶりをアピールしました。



懐かしの車が大正村の町並みを交通安全パレード

水道水質モニターを委嘱

4月7日に平成17年度水道水質モニター委嘱式が行われました。この制度は、皆さんの家庭に安全でおいしい水をお届けするため、市内上水道と各地域の簡易水道の検査を委嘱するもので、水道法に基づき、残留塩素、色、濁りと臭味を1日1回検査してもらいます。

旧恵那市ではすでに実施していましたが、恵南地区を新たに加え、市内全域で、上水道17人、簡易水道47人の合計64人が委嘱を受けました。



市長から委嘱書を受け取る水道水質モニター



三郷町地域安全パトロール隊発足

三郷町に地域安全パトロール隊が発足しました。三郷町の各団体が協力し、児童の下校時の見回りをはじめ、地域の安全全般を守るための活動をします。4月14日に発足式が行われ、恵那警察署長よりパトロール用品として、たすきや車用の蛍光マグネットが贈呈されました。翌15日には、三郷小学校児童の下校時に出発式が行われ、見回りを開始しました。この取り組みにより、犯罪の未然防止が期待されます。

たすきをかけたパトロール隊が三郷町の安全を守ります



広重賞こども版画コンクール表彰式

4月10日、中山道広重美術館で広重賞こども版画コンクール入賞作品の表彰式が行われました。全1,436点の作品の中から選ばれた特別賞7賞9人と、奨励賞32人の入賞者が表彰を受けました。

入賞作品には、市内各地域の自慢を作品にしたもの、スポーツの動きがそのまま伝わってきそうなもの、自分をうまく表現したものがあり、入賞者は結果に満足そうでした。

広重賞に輝いた稲ヶ部未来さん(明智小学校)